

---

# I —Dearest Code—

降矢木三哲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

I — Dear est Code —

### 【Nコード】

N4390X

### 【作者名】

降矢木三哲

### 【あらすじ】

十年以上も勤めた『職場』を辞めて、出馬した選挙に落選し、人生を見失った主人公『加瀬雅哉』。一回落選したぐらいで人生を見失うなんて……というご意見もあるでしょうが、いわゆる、彼は『ニート世代』、とても打たれ弱い属性なんです！ いや、ほんと。

そんな加瀬が、辿り着き、ひざをついたのは、いまや『新華僑街』と呼ばれている『池袋北口』。

そこで、加瀬に、優しく心配そうに声をかけてきたのが、華人留学生『智雪麗』。

そんな彼女に一目ぼれした加瀬は、翌日から彼女の姿を探して街を彷徨う！

偶然の再会！

行政書士事務所就職！

なんだそれ！？

……つまり、そんなニート気質のストーカー男の物語……ではなく、入管手続を専門とする行政書士事務所が舞台の真面目な物語です。

## 【前提としての概略】

> i 3 2 6 4 0 — 4 1 4 8 <

●西暦二〇〇一年に勃発した内戦により『党』は崩壊し、中国は十の独立国家と五の独立都市に分裂した。

●この混乱に乗じた諸外国は、それぞれを支持する『国家』を、大陸で唯一の正統な政府であると宣言した。

●そして、西暦二〇一〇年に入ると、十の『国家』は、五までに分裂統合され、冷戦状態になった。

●ある意味安定期に入った大陸は、この失われた十年を取り戻すかのように、諸外国との交流を活発化させる。

●特に『中立』宣言し緩衝国家として機能していた日本には、多くの留学生等の人が集まってきた。

この物語は、西暦二〇二〇年の日本か

ら始まる。

## 【前提としての概略】（後書き）

入国管理局届出申請取次行政書士の仕事の内容自体は、現実在即したものにしていますが、国際情勢等については、現実と変えてあります。

### 【入国管理局申請取次行政書士】

日本に滞在している外国人に代わって、入国管理局に関する手続きをする行政書士。英語では、Immigration Lawyerと表記することが多い。

ジャンルのには、ミステリ&ポリティカルフィクションに分類されるように頑張って執筆していますが……能力不足の為、どうなるかわかりません……すいません。

でも、頑張りますので長い目で見ていただければと……。

現在、鋭意執筆しています！

## 序章 ？－？

> i 3 3 7 6 3 — 4 1 4 8 <

【加瀬】

「……どうして……僕は……生きているんだろう……？」

こんな、いまどき『中学二年生』（厨二病）でも口にしないセリフを言ってしまうほど、僕の精神は疲弊していた。

時間は、【午前七時】。

場所は、【JR池袋駅北口】。

僕は、公衆電話の傍で座り込み、通り過ぎる人の流れを、呆然と眺めていた。

耳に入ってくるのは、リズム感のある言葉……中国語。

もちろん、日本人もいるだろうが、日本語よりも中国語の方が耳についた。

今僕がいるこの場所――池袋北口は、日本人よりも中国人の方が多いということだろう。

ま……そんなことはどうでもいい。

今の僕は、『空』<sup>から</sup>になっていた。

昨日まで張り詰めていたものが、そっくりそのまま、どこかへ消えてしまっていた。

……からっぽ……何も……やる気がしない……。

自業自得だけど……。



【加瀬】

「なんで、働かなくちゃならないんだろ……？」

こんなイタイ言葉も躊躇なく言える。

……僕は、『選挙』に落選したのだ。

半年前、十年以上も勤めた『職場』を退職した僕は、地元に戻って『選挙』に出馬する準備を始めた。

この僕の行動に対して、もちろん周囲は大反対。

「やめとけ」

「無謀」

「身の程を知れ」

様々な言葉を叩きつけられたが、僕の意味は固かった。

そして……『落選』。

『落選』してからの記憶は、はっきりしていない。

だから、今、どうして自分が早朝の『池袋北口』にいるのかもわからない。

あらためて人間の脳の不思議さを認識してみるが、だからといって、何がどうなることはない。

とにかく僕は、どこにも進めない状態になっていた。

だから……

【??.?】

「どうしたですか?」

と、声をかけられたことが……こんなちよつとしたことが……僕の進むキツカケとなったんだ。

そして、これが『彼女』……智雪麗との出会いでもあった。

## 序章 ？－？

> i 3 3 7 8 0 — 4 1 4 8 <

僕は、街を疾走していた。

ま……疾走していたとはいいすぎだけど。

とにかく、さっきまでの僕とは全く違っていた。

あらためて、そのキツカケとなった『彼女』との会話を思い出す。

【???】

「どうしたですか？」

【加瀬】

「……」

【???】

「気分が悪くなっちゃいましたか？」

【加瀬】

「……え……あ……」

【???】

「……？」

ほぼこれだけの会話。

それなのに、僕の心には『彼女』の姿が刻みこまれた。

つまり……ヒトメボレをしてしまったのだ。

加瀬耀一！

三十歳！

お恥ずかしながら、ヒトメボレしてしまいましたあああああ！

やべえ。

マジやべえ。

とかくマジやべえ。

テンション高！

僕、テンション高！

待っててよお！

すぐ会いに行くからねえ！

名前も知らないけど！

そんなのメイウエンテイ没問題！

もし、このときの自分の姿を客観的に見ることができていたのであれば……

そして……僕に、正常な判断する理性を保っていたなら……

こう評しただろう……

『ストーカー』……と。

てへっ！

## 序章 ？－？

> i 3 4 2 9 2 — 4 1 4 8 <

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

...

ま……わかっていただけ……。

なんとなくわかっていた……分かっていただけ……。

それでも、そのことに気づかないようにしていただけ……。

でも……気づいてしまった……自らの愚行に。

『彼女』が見つからなあいよお！

どこにいるんだよおおおおお！！

僕は、三時間ぐらい池袋北口周辺を彷徨<sup>さまよ</sup>ったが、『彼女』を見つけることができなかった。

冷静になって考えてみれば、『彼女』と再開する可能性は、とても低いことはわかる。

街で一度会ったことがあるだけの名前さえも知らない女性を見つけ出すことなど不可能に近い。

一縷<sup>る</sup>の望みにかけてみたけど……そんな幸運の糸は僕には訪れなかった。

さて……どうしようか……。



僕は、足を止めて立ち尽くした。

すると、僕の身体は、あらためて無力感に支配されていく。

力が抜けていき……

その場にひざまずくようになった。

するとそのとき、僕の目に電柱広告の文字が入ってきた。

【入管簽證・国際結婚離婚・許可手續専門 香城行政書士国際法  
務事務所 JR池袋駅北口すぐ 相談無料】

【国際結婚手續】か……？

……

……

……

.....

.....

.....

.....

.....

.....  
そうかあ！

国際結婚だ！

結婚すれば、『彼女』に会えるんじゃない！？

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

...

このときの僕の頭は、やはりオカシクなっているだろう。

『彼女』に会えないから、『彼女』と結婚するなんて……キチガイだ……全く論理性がない。

ただ、テンションが上がりきっていた僕は、全く自覚していないのでした。

やべえ……マジ、やべえ……僕。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4390x/>

---

I —Dearest Code—

2011年11月15日00時30分発行